■江村北海　　漢詩人。京都で{賜杖堂}を開き詩壇に新風をもたらすとともに，美濃国郡上の詩壇を全国的なものに育成。
えむらほっかい
和漢三才図絵1713＝　　京都の大火を逃れた母の寄寓していた明石の伯父河村家で，伊藤龍洲の次男に生まれる。通称伝左衛門。

徳川吉宗将軍1716＝ 3歳：

祖母に可愛がられ，

小石川薬園・1721＝ 8歳：この年から，明石の祖母のもとで暮らし，
・・・・・・1722＝ **9歳：**
伯父が明石藩士だったことから，武芸の稽古に励む一方，

河村家にあった書を片端から読破し，俳諧にも親しんで結社にも参加していたが，

・・・・・・1730＝17歳：**_明石藩儒簗田蛻巌と出会って’才能を無駄にするな’と諭されるや，京都に戻り，以後，学問に専念，**
・・・・・・1731**＝18歳：**
享保大飢饉・1732＝19歳：
・・・・・・1733＝20歳：**_早くも，丹後国宮津の藩儒となり，父龍洲の代講を務めると，その名講義ぶりが評判になるが，**
・・・・・・1734＝21歳：**_父の友人で宮津藩士江村青旬が病死したため，江村家を継ぐことになり，学問で立つことを断念，**

・・・・・・1740**＝27歳：**

公事方御定書1742＝29歳：京都留守居役を命じられ，

以後，**_有能な会計担当として実務に専念するうち，**
徳川吉宗隠居1745＝32歳：

・・・・・・1749**＝36歳：**

徳川吉宗没・1751＝38歳：

宝暦事件・・1758**＝45歳：_宝暦騒動で改易となった金森氏の跡を受けて宮津藩主青山幸道が郡上藩に移封となったことから，**

大岡忠光没・1760＝47歳：***致仕して京都に戻ると，{賜杖堂詩社}を結び，生き生きと学問の道を再開，**

_著名な詩人も加わって，名声が広がって行く。郡上藩主となった青山幸道からも藩儒を望まれ，客師として年一回，藩校{潜龍館}で熱心に講義，藩士らに慕われ，詩文の愛好家が集うようになる。

意次側用人・1767**＝54歳：*「北海先生詩鈔」(初編)，**

御蔭参流行・1771＝58歳：**_上代から当代に至る日本漢詩の優れた列伝体文学史「日本詩史」，**
田沼意次老中1772＝59歳：

解体新書・・1774＝61歳：**_江戸初期から当代に至る大規模な漢詩選集「日本詩選」，**

雨月物語刊・1776**＝63歳：**

源内獄中死・1779＝66歳：「日本詩選」(続編)，

蘭学階梯・・1783＝70歳：***現在もなお通用する儒学・漢詩文入門書「授業編」などを著して，**

蝦夷初調査・1785**＝72歳：**
田沼意次失脚1786＝73歳：「北海先生詩鈔」，

・・・・・・1788＝75歳：**_没した。**

「人づくり風土記(岐阜)」，平凡社百科事典，